

**令和4年度  
事務事業評価（二次評価）**

**アンケート結果**

**（評価者編）**

**（説明者編）**

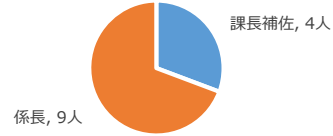
■ 令和4年度事務事業評価（二次評価）アンケート結果（評価者編） ■

回答数：13

1.職名について

■設問1 あなたの職名を教えてください。

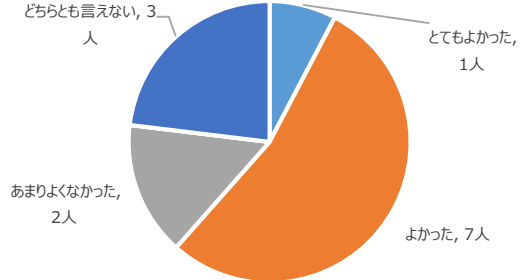
1 課長補佐	4人
2 係長	9人



2.二次評価への参加について

■設問2-1 二次評価に参加してよかったですか？

1 とてもよかったです	1人
2 よかったです	7人
3 あまりよくなかった	2人
4 よくなかった	0人
5 どちらとも言えない	3人



※上記の回答を選択した理由を教えてください。

○とてもよかったです／よかったです

- ・ 担当事業について詳しく知ることができ、各委員の様々な視点でのアイデアや意見、評価を聞くことができたので良かった。
- ・ 他課の事業の内容や課題等を知ることができた。町施策のつながりを知る機会になった。
- ・ 何回か参加しているので、他の職員にも関わってもらいたいところですが、中々人員をさけない部分もある。

○あまりよくなかった

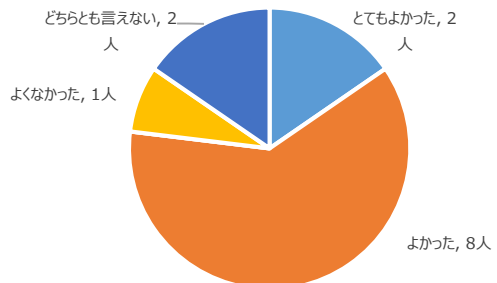
- ・ 各課が1次評価からの修正等指示に無関心でありこの事業が正しいのか疑問に思う。
- ・ 時期的に多忙であり、本来の業務に支障をきたしたため。

○どちらとも言えない

- ・ 他課の業務課題等が共通認識できる点においては、良い機会であると思うが、毎週半日がつぶれる、書記等、負担に感じた。今後は、係長以上でなくてよい、毎回評価者を変えてもよい等、考えてほしい。
- ・ 良かった点、良くなかった点、それぞれがあった。
- ・ 他の事業を何うと、町職員であっても知らないことも多く、また担当者の説明や委員からの指摘で、事務に対する工夫や問題点などを見る視点などの気づきも多く勉強になりました。ただ一方で、1か月の短期間集中とはいえ、毎週会議に出席するのはいささか負担でもありました。

■設問2-2 職員（課長補佐・係長）と行政改革推進委員・行財政経営マネジメントアドバイザーとの混成チームで二次評価してよかったですか？

1 とてもよかったです	2人
2 よかったです	8人
3 あまりよくなかった	0人
4 よくなかった	1人
5 どちらとも言えない	2人



※上記の回答を選択した理由を教えてください。

○とてもよかったです／よかったです

- ・ 専門的な知識を持たれている方の見解や、大学の先生等学識経験者からいろいろな事例を紹介していただけるなど職員だけではできない議論ができたと思うので。
- ・ 外部委員が居られる事で全体把握ができたり民間視点も入り意見が活発になると感じました。職員（自分は）は担当課の事は把握できるが全体につなげ視点を知っていたい点があるので良かったと思います。
- ・ 職員からでは言えない厳しい意見が出たことは評価できます。ただ、民と官での温度差をどうするかが課題のままでほしい。
- ・ 行財政経営マネジメントアドバイザーの意見を付度する行動になるが、ある程度は良かったと思う。

- ・ 行政改革推進委員・行財政経営マネジメントアドバイザーの意見を聞くことができ参考になった。
- ・ 職員の評価ではどうしても緩くなりがちであると思うため。
- ・ 職員とは違う視点からのご意見もいただけるのでいいと思います。ただ現委員さんは行政のことも一定ご理解をいただいている方なので良いですが、委員の方が変わった時に同じような議論になるかは少し疑問。
- ・ 事業を進めるうえでの課題や着眼点を知ることができたと思います。

○よくなかった

- ・ そもそもの説明であった「この場はバトルする場ではない」との説明であったが、完全にバトルの場となっていた。今後もそのようなスタイルで行うのであれば、説明要員を変更する必要があると感じた。

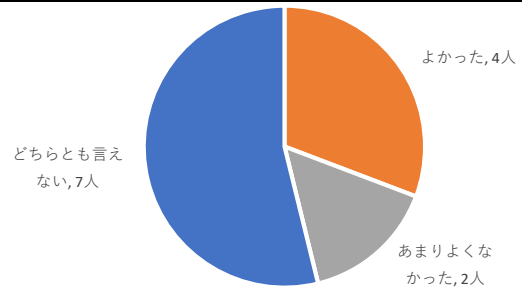
○どちらとも言えない

- ・ 外部委員より職員が多いため、多数決だと外部委員の意見が覆ることがあり、職員と外部委員を同数にするか、事業を絞って外部委員のみで実施するべき

### 3.二次評価の内容について

■設問3-1 評価シートの構成は分かりやすかったですか？

1 とてもよかった	0人
2 よかった	4人
3 あまりよくなかった	2人
4 よくなかった	0人
5 どちらとも言えない	7人



※上記の回答を選択した理由を教えてください。

○よかった

- ・ シートの構成は総じていいと思うが、作成者によって温度差があるのでは。
- ・ 細事業ごとでも評価はすべきと思います。
- ・ 初めてでしたが分かりました。ただ細事業が何個もつくケースの時間配分を多くとる等の配慮が必要かと。また細事業によって方向性がちがうモノがある中での全体評価を出すのは判断が難しく感じました。

○あまりよくなかった

- ・ 事業のまとめ方が一律ではなく精査したうえで、事業を分ける必要があると感じた。

○どちらとも言えない

- ・ シート構成以前に、前回の判定・指摘事項をどのように改善したか、行く予定なのかと思う。
- ・ 評価中に、評価シートの記入の考えが1回目と2回目以降で変わっていたので、混乱する部分もあったので変わった時点で評価チームへの情報共有等してもたつた方が良かったのではと思いました。
- ・ 作成する担当者や事業によって内容にばらつきがある印象です。でも作成する大変さも理解できるので、コンパクトにまとまっているのは良いのではないのでしょうか。

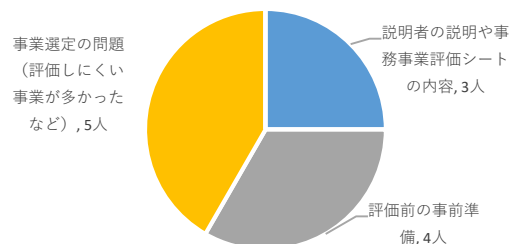
■設問3-2 全体を通して説明者と十分な意見交換ができましたか？

1 できた（概ねできた）	6人
2 できなかった事業もあった	7人
3 全体的にできなかった	0人



■設問3-3 設問3-2で「2.できなかった事業もあった」「3.全体的にできなかった」と回答された理由を教えてください。（複数回答可）

1 説明者の説明や事務事業評価シートの内容	3人
2 ファシリテーターの進行	0人
3 評価前の事前準備	4人
4 事業選定の問題（評価しにくい事業が多かった）	5人
5 その他	0人



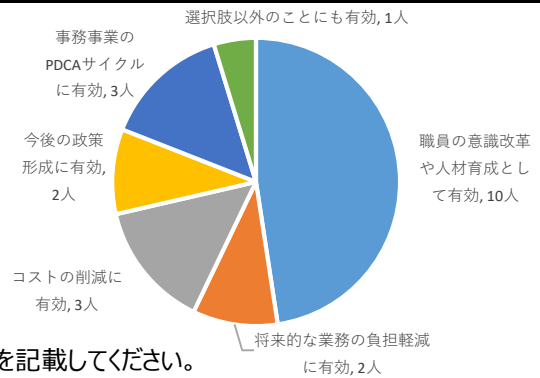
※上記で「5.その他」を選択した場合、その内容を記載してください。

「5.その他」の選択なし

## 4.二次評価の有効性について

### ■設問4-1 二次評価は有効だと思いましたか？（複数回答可）

1 職員の意識改革や人材育成として有効	10人
2 将来的な業務の負担軽減に有効	2人
3 コストの削減に有効	3人
4 今後の政策形成に有効	2人
5 事務事業のPDCAサイクルに有効	3人
6 選択肢以外のことにも有効	1人
7 有効なことではない	0人



※上記で「6.選択肢以外のことにも有効」を選択した場合、その内容を記載してください。

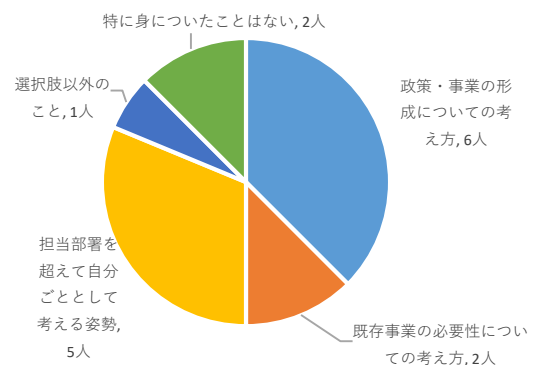
- ・外部委員により民間視点から評価・指摘を受けることは、職員にとってよい刺激となる。

※上記の回答を選択した理由を教えてください。

- ・新事業を起す際に目的、費用対効果などの意識付けになり、評価者、説明者のどちらにとっても意識改革になる。また様々な意見や評価を踏まえ、次年度以降の事業実施に反映させることが習慣づけになることで、事業のブラッシュアップにもなり、PDCAサイクルにもつながる。
- ・評価内容についてはコストに関することが一番多かったと思う。指摘どおり改善できればコスト削減にはつながると思う。
- ・担当課の意識改革及び知識不足は改善されることを期待して。
- ・事業について他課や役場外の方の意見を聞いたり、説明する機会が得られるのは、内容の見直しや事務の進め方において刺激があると思います。
- ・他事業を知る事で町の抱える課題などが肌身で感じられ、自身の業務も他課との連携・つながりがある事に気づく事が出来た。また職員以外の委員先生が居られることでより活発化を感じました。

### ■設問4-2 二次評価に参加して、身についたことはありますか？（複数回答可）

1 政策・事業の形成についての考え方 （目的や成果指標の考え方が身についた等）	6人
2 既存事業の必要性についての考え方 （優先度や判断の基準が身についた等）	2人
3 コスト意識や効率性についての考え方	0人
4 担当部署を超えて自分ごととして考える姿勢 （町政全体を考える広い視点が身についた等）	5人
5 選択肢以外のこと	1人
6 特に身についたことはない	2人



※上記で「5.選択肢以外のこと」を選択した場合、その内容を記載してください。

- ・外部委員さんが参加されたことにより別視点での考え方が聞ける部分もあった。

※上記の回答を選択した理由を教えてください。

- ・窓口業務における来庁舎に要する対応時間を成果指標とする意見等、勉強になった。
- ・目的、成果指標について行革委員さんから指摘が度々あり、そうした視点について勉強になった。
- ・評価の作業について、身につくほど広く深く意見交換等できたとは思えない。
- ・行政改革推進委員・行財政経営マネジメントアドバイザーの意見が良かった。
- ・所属する課以外の課の職務内容を詳しく聞くことで、さまざまな事業があることが実感できました。

## 5.次年度以降の改善点・ご意見

### ■設問5-1 二次評価について、次年度に改善すべき点等があれば教えてください。

- ・多数決のため職員の判定が採用される場合があり、職員は意見のみとし、判定しないほうがよい。
- ・勤続5～10年の職員に評価者をさせてはどうか。若いうちから事業目的や費用対効果等意識するようになった方がいいと思う。

- ・ 1次評価の改善等経過観察ができてずに2次評価はありえないと思いました。(※)
- ・ 設問2-2 (よくなかった) にも記載した理由から、そもその目的を再考する必要があるのでは？
- ・ ファシリテーターとしての進行は評価者が対応しても良いが、書記については企画財政課職員がするべきと思う。理由は評価者としての質問や意見する時間が減り本来の評価する立場でなくなるため。また、今回の二次評価で町長が以前の事業評価内容を把握されているのか疑問が生じた。担当課の説明に町長から予算措置を受けている等、評価シートに記載のないことを聞いた。評価する側としては判断しづらいし、何を評価しているのかわからなくなる。あと、短時間で結論付けだが、多数決での決定及びその場では思わなかったことが、振返ることで疑問や考えが変わることもあると思うため、再度決定の確認が必要ではないかと思う。
- ・ 二次評価結果の予算への反映の仕組みをもう少し考えるべきか。コスト削減した分を、事業費増額評価した事業にコスト削減した分を配分するなど何か考え方が必要か。現状では評価結果の予算への反映があいまいで、以前のアンケート結果のようなやらされ感の回答があるのではないのでしょうか。
- ・ 対象とする評価事業をもう少し絞り込んでも良いのではないのでしょうか？すべての事業に見直しが必要だということは理解できるのですが、限られた時間と労力を考慮して、法定事務などの事業は3年おきを5年おきにするとかではダメなのではないでしょうか？
- ・ 評価者について、混合で行うことはよいと思うが多数決で決定するため、行政改革推進委員・行財政経営マネジメントアドバイザーの意見が通らないのはどうなのか
- ・ 二次評価の出席に応じて人事評価加点等あるとよいと感じます。

■ 設問5-2 二次評価に関するご意見・感想がありましたらご記入ください。

- ・ 今後も職員が出席するのであれば、係長以上でなくてよい、毎回評価者を変えてもよい等、考えてほしい。
- ・ 事業選択が曖昧で法の下で法に従い実施している事業とそうでない事業も区分は絶対に必要だとおもいます。5-1 (※) でも記載しましたが、まず1次の改善が出来ないのは担当課だけの問題なのか？委員からも改善なくして2次をする意味はあるのか？と指摘はごもっともな意見でした。企画財政課も忙しそうですが、この事業をされるなら完結できる旗振りをしてください。
- ・ 全体的に各課の説明者に知識不足を感じたのと、評価シートに記載されてない重要な内容が当日聞くこととなり、事前準備の意味がないように思えた事業があった。また、短期間での評価は、評価する側では事前準備・評価当日・まとめと負担が大きかった。
- ・ 予算全体、事業全体を知らない中、事業費の増額とか減額とか評価しているため無責任な部分もあると感じている。
- ・ 委員として参加し、職員として学ぶべきことも多かったと思います。一方で、評価の基準が委員や事業によってとらえ方が違うなかで、意見交換を経た多数決とはいえ、予算を含めた評価区分を決めるのは難しく感じました。
- ・ 議事録を評価者でとることは必要なのではないでしょうか。
- ・ 個人の有効性はあると思いますが、全体としての成果があるなら継続の有効性はありますが、効果・成果が低いもしくは無ければ本事業は労力のみかかる事業となると思います。

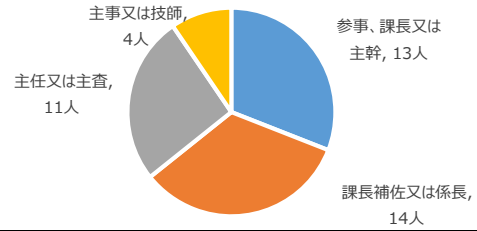
■ 令和4年度事務事業評価（二次評価）アンケート結果（説明者編） ■

回答数：42

1.職名について

■設問1 あなたの職名を教えてください。

1 参事、課長又は主幹	13人
2 課長補佐又は係長	14人
3 主任又は主査	11人
4 主事又は技師	4人

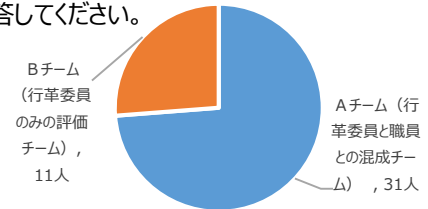


2.二次評価への参加について

■設問2-1 どのチームの二次評価に参加しましたか？両方の場合は両方に回答してください。

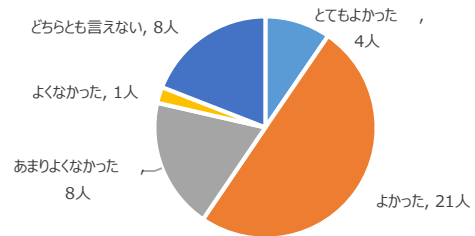
1 Aチーム（行革委員と職員との混成チーム）	31人
2 Bチーム（行革委員のみの評価チーム）	11人

※9/27評価のみ



■設問2-2 二次評価に参加してよかったですか？

1 とてもよかったです	4人
2 よかったです	21人
3 あまりよくなかった	8人
4 よくなかった	1人
5 どちらとも言えない	8人



※上記の回答を選択した理由を教えてください。

○とてもよかったです／よかったです

- ・職員からは言いにくいことを評価委員から言ってもらえてよかったです。
- ・行革推進委員の評価員の方が、行政職員(もしかすると理事者)よりも、しっかり各事務事業に対する視点をお持ちで、行革の意味を知り、行革のスピード感の鈍さを見透かしておられた点で、参加した意義あると感じた。
- ・他課・他事業との連携が必要な課題を共有することができたため。
- ・懸案事項の方向性を行革委員が具体的に示してくれた。
- ・職員だけでなく外部の委員からご意見を頂けたことは今後の事務に役立てられると思ったため。
- ・課題認識の共有が評価者と行政側とで一定できたと認識。
- ・外部に指摘いただけるとその意見が今後の施策制作の基準とできるため、ありがたい。
- ・事務事業の評価は、基本的には当該管理者（課長）の現状把握や遂行管理状況、コーディネイト力が問われるものだと思います。事業は各担当者が進めていくものではあるが、現状、担当任せになっており現状把握も出ていない事が多々あるのかなと思いますので、課長が異動したばかりの当課では内容を把握していただく意味でよかったですと思います。
- ・googleフォームにより、住民からの意見やフィードバックを検討されてはどうかとアイデアをいただいた。
- ・委員さんから、町民、クレーマー目線の意見を聞けたから。
- ・自身の担当事業、課で取り組む事業について客観的に見て、評価されることで、事業の目的や意味を考え、事業の価値を見直すことができたことが良かった。
- ・評価委員と担当課と概ね方向性は同じということが確認できたこと。
- ・第三者の意見や、例年どおりのとなっている事業を見直すいいきっかけとなると思う。

○あまりよくなかった／よくなかった

- ・手間がかかったわりには、効果が見込めないように感じたため。
- ・事務内容によっては必要性を感じられないため。
- ・事務事業評価に時間を費やしたため（時間外での資料作りなど）
- ・趣旨がよくわからなかった。

- ・法順守の事業に評価をする意味があるとは・・・
- ・担当課として承知している範囲以外の新たな気付きはさほどなかったため。
- ・評価しづらい事業であったと思う。
- ・現在の担当者として説明員として参加したが、過去担当者の宿題の積み残しによって、行革委員から厳しい意見があった。課内の問題ではあるが、前任者からの引継ぎ等も無く、説明と言いつに苦慮した。
- ・時間外にしか評価資料の準備ができず負担が大きいため。

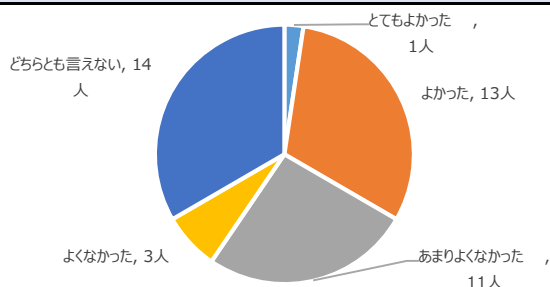
○どちらとも言えない

- ・事務事業評価で達成できた事業の見直しと掛かったコストを比較して、どちらとも判断が付かない。
- ・今回は参加してプラスとなった点がなかった。
- ・良い面も悪い面もあるため
- ・行革委員のストレートな意見を聴くことができたが、現実的に行政として難しい面もある。
- ・原課以外の意見が聞けたことはよかったが、過去に経過がある事業については、真逆の方向に方針転換することは難しいと感じた。
- ・重箱の隅をつつくやり取りもあり、建設的と言えない部分がある
- ・厳しい意見をいただいたりもしたが、事業について改めて考える機会にはなったと思う。今回は、色々なご意見をいただきながらも、評価は予算の削減には至らなかったが、仮に、予算削減の評価をいただいた場合、この評価はどれぐらい効力を持ち、事業を縮小するにあたり、どれだけ責任を持ってもらえるものなのか疑問に思いました。

### 3.二次評価の内容について

■設問3-1 評価シートの構成は分かりやすかったですか？

1 とてもよかった	1人
2 よかった	13人
3 あまりよくなかった	11人
4 よくなかった	3人
5 どちらとも言えない	14人



※上記の回答を選択した理由を教えてください。

○とてもよかった／よかった

- ・見る人、読む人の立場だと分かりやすかったと思います。説明する側としては深い部分を説明することになるので、もう少し練習すればよかったと反省しております。
- ・前年より改善されたように思う。(前回回答した評価があったため、記入しやすかった)
- ・見やすいシートだったと思う。
- ・以前のような追加資料作成が不要となったことは大きい。
- ・複数の事業が一緒になる時に目的などそろえるのが困った。複数の事業が一緒になる場合のシートの使い方がよくわからなくて、書式を壊しそうになった。
- ・トライ&エラーを繰り返し更新してってください。
- ・必要性・効率性・有効性が細分された9項目について、それぞれ内容の違いがわかりづらい。記載した評価内容が設問の意図にあったものなのか判断できない。
- ・以前のものより見やすくなっていると思います。
- ・これで良いとは思いますが、わかりやすくない。わかりやすくないといけないのであれば見直すべき。自身が評価を受けた事業については、細事業の多い事業であったため、課内で見直すこととする。

○あまりよくなかった／よくなかった

- ・重複する内容があり、もう少し簡素化できればいいと思います。
- ・全ての事業に当てはまる構成ではないと思うので評価シートの作成には大変苦労した。ころころと様式を変えられるのは困る。
- ・事業評価にそぐわない事業については記入がむずかしいため。
- ・とにかく字が細かくて読めない。
- ・細事業別シートを各担当者で入力するため、評価表への入力がしにくい
- ・評価に対する説明箇所が同じ内容になるため、簡潔にまとめてほしい。

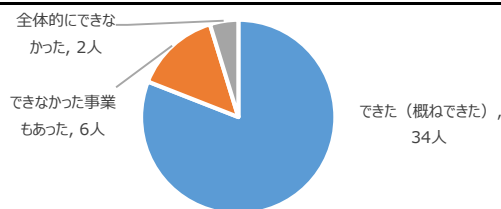
- ・細かった。
- ・体裁が固定されているため細事業の数により内容に差が生じやすい
- ・事業にいくつもの細事業等がくっついていると、決められた時間で細かい部分が説明できない。そうであれば、事業数に応じて時間を増やして頂きたかった。
- ・毎年様式が変わるので、理解するのに時間がかかる。
- ・様式変更されるとシート入力に何かと負担となる。「必要性」「効率性」「有効性」の「評価に対する説明」欄が各3枠あるが、各1枠に変更されたい。

○どちらとも言えない

- ・さまざま事業があるため、同一の様式ですべての事業を表すことは難しいと感じる。
- ・評価シートの構成としては仕方ないのかなと思いますが、もう少し記入しやすくないかと思う。
- ・細事業の一次評価のシートについて、評価をどれにしたらいいのか（そぐわないと思われるので-にしているのか、その判断基準は担当個人の感覚でいいのか等）悩むことがあった。
- ・国府の補助事業だったため、効率性・有効性を問われても困るなあとと思うところがありました。
- ・見にくい。
- ・公会計システムでは、中事業のくくりの中で細事業が細々節として整理してあります。今回の事務事業評価の評価シートは、中事業が事業、細々節が細事業として整理されています。評価そのものは、最終的に事業全体について行うことになっていますが、ちょっと無理がありような気がします。個々の細事業に着眼してに評価した上で、総じてどうなのかの評価が必要では。
- ・全体的には分かりにくいとは言えない。

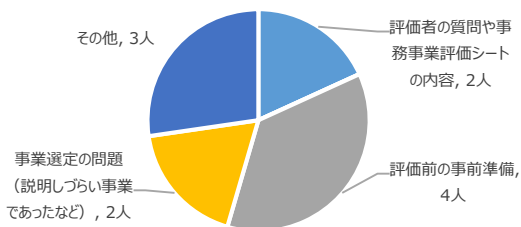
■設問3-2 評価者と十分な意見交換ができましたか？

1 できた（概ねできた）	34人
2 できなかった事業もあった	6人
3 全体的にできなかった	2人



■設問3-3 設問3-2で「2.できなかった事業もあった」「3.全体的にできなかった」と回答された理由を教えてください。（複数回答可）

1 評価者の質問や事務事業評価シートの内容	2人
2 ファシリテーターの進行	0人
3 評価前の事前準備	4人
4 事業選定の問題（説明しづらい事業であった）	2人
5 その他	3人



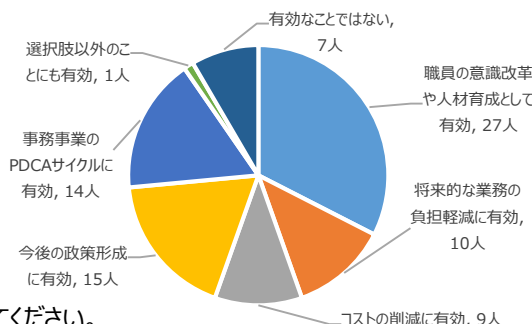
※上記で「5.その他」を選択した場合、その内容を記載してください。

- ・事業によって協議内容のボリュームに差があり、時間内におさまらなかった。
- ・時間の問題
- ・言われることは、ごもつともであるが、行政として一方通行の意見を全て聞くわけにはいかないところで、ギャップが大きく意見交換が十分できなかった。
- ・二次評価対象事業の選定に偏りがあるので、毎年度、各係平等に選定して欲しい。

4.二次評価の有効性について

■設問4-1 二次評価は行財政経営マネジメントにとって有効だと思いませんか？（複数回答可）

1 職員の意識改革や人材育成として有効	27人
2 将来的な業務の負担軽減に有効	10人
3 コストの削減に有効	9人
4 今後の政策形成に有効	15人
5 事務事業のPDCAサイクルに有効	14人
6 選択肢以外のことにも有効	1人
7 有効なことではない	7人



※上記で「6.選択肢以外のこと」を選択した場合、その内容を記載してください。



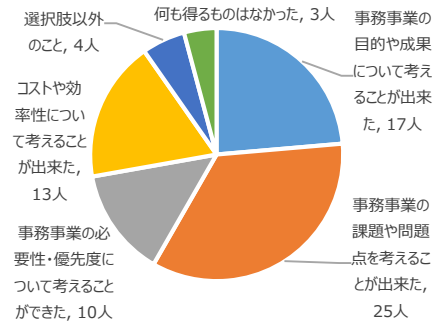
- ・ 事務事業評価が活かされているとは思えない。
- ・ 職員一人一人が捉えてください。

※上記の回答を選択した理由を教えてください。

- ・ 事務事業評価の一番の魅力はコスト削減と思うから。
- ・ PDCAサイクルには有効と考えられるが、それを実行するための時間と人員と旗振り役がいらない。
- ・ 担当職員として事業についてPDCAを回すだけでなく、より深く見識を深めることができる。あとは担当課以外からの職員や外部委員から直接意見をいただく機会がないので、こういった場合は貴重だと思います。
- ・ 普段の業務では見落としている部分に外部委員の目が入ることにより、事業を見直すきっかけになる。
- ・ 行革委員の意見を聞くことで職員は日ごろの業務を見つめなおすきっかけとなる。ただし、短時間で各事業を議論することは難しく、結果（見直し）に結びつけることは難しいように感じた。
- ・ 二次評価に臨むにあたって、課内で再度事業の見直しをできたことがよかったと思う。
- ・ 事業を広く比較検討することは、効率化につながる。
- ・ 全てに関して有効であるが、有効にできていない理由は、実施主管課と職員一人一人にあると思います。
- ・ 外部委員による評価を受けることで、よい刺激となった。
- ・ 携わる事務事業の目的や効果を意識することで、事業検証する（やっとならいい、で終わらない）意識につながるため。それによって、コスト意識も芽生えるため。
- ・ 以前からの慣習で行っている事務を、客観的に見直す必要があると認識できたことは有効だった。
- ・ 評価者でAやCの判断をしていただいたら、予算削減が出来る。
- ・ 委員をお世話になっている職員さんの負担が大きい。その分、本来の業務が滞る。有効である業務も当然ながらあると推測されるが、今回のピックアップの基準が有効な結果につながるとは思えない。
- ・ 仕事にあたる意識の面では有効だと思いますし、どのような事業でもPDCAを回す必要があると思う。
- ・ このことを機に勉強することになるから。
- ・ 住民や議会とは異なった視点で事業を評価いただけるため
- ・ 社会情勢による体制変化や事業の必要性など、他の目から意見を伺うことでの「気づき」やコスト意識などを考える機会だと捉えている。
- ・ その業務が必要なのかや、費用対効果に見合っているか、今後どうしていくのか等立ち止まって見つめなおすきっかけになっているのは良いと思う。
- ・ 課題を他課職員や外部委員とも共有できたことで、これまでの取り組みと自身の考えに自信がついたため。他課・他事業との連携が必要な課題を共有することができたため。
- ・ 事業を自己点検すること、外部からの意見を聞けることにより、よりよい事業への改善の意識付けとなるため。
- ・ グラフ等を用いて事業の振り返りを行い改善点等を発見することができた。
- ・ 二次評価をしたことで、コスト削減等につながるとは思えないが（評価して終わりになるだけ）、職員の問題意識として考えるきっかけにはなると思う。
- ・ 評価しづらい事業であったと思う。
- ・ 評価チームの回答が絶対であるなら、事業を廃止することで、コスト削減や業務の負担軽減になるが、廃止することが困難な事業もあると思うので、そうなれば有効とは考えられない。
- ・ 意識改革というより、どうしようもないところを再発見できる。
- ・ 評価シート作成に相応の労力・時間を要するため、有効に活用する必要がある
- ・ 事務事業評価の目的は、事業を縮小・削減し、お金や人材を有効に活用することだと認識しています。しかしながら、先述した通り、この事務事業評価での評価が、必ず、予算に直結するぐらいの効力や責任が無いと、事業の縮小・削減にはつながらないと思います
- ・ 行財政経営マネジメントのスキルを職員が身に付けられているとは思えない。自身でいうと、事務事業評価の目的、有用性すら納得できていない部分があるため、ここを学ぶことが必要。（今さら申し訳ありません。）

■設問4-2 二次評価に参加して得られたことはありましたか？（複数回答可）

- |                             |     |
|-----------------------------|-----|
| 1 事務事業の目的や成果について考えることが出来た   | 17人 |
| 2 事務事業の課題や問題点を考えることが出来た     | 25人 |
| 3 事務事業の必要性・優先度について考えることができた | 10人 |
| 4 コストや効率性について考えることが出来た      | 13人 |
| 5 選択肢以外のこと                  | 4人  |
| 6 何も得るものはなかった               | 3人  |



※上記で「5.選択肢以外のこと」を選択した場合、その内容を記載してください。

- ・担当者レベルでの事業の再確認は出来たが、時間と労力をかなり費やした。
- ・担当者、担当課で完結できない事案があり、外部の方から見ればそれは役場としての一つのものであるため、職員の意識（縦割り行政）について考えるきっかけとなった。
- ・googleフォームにより、住民からの意見やフィードバックを検討されてはどうかとアイデアをいただけた。（設問2-2回答再掲）

※上記の回答を選択した理由を教えてください。

- ・予算に関する質問や意見が多かったため。
- ・公共交通事業ですが、1人あたりのコストに換算すると高額な金額となり、税の投入の仕方についてより考えさせられました。現在より生産性の高い事業の推進を目指したり、代替的な事業へ置き換えることを必要とされているなど改めて感じました。
- ・外部委員の視点は職員とは異なっているため、気づきを得ることは多い傾向があると思う。
- ・事業区分の効率化について再考する機会だった。
- ・全てに関して有効であるが、有効にできていない理由は、実施主管課と職員一人一人にあると思います。（設問4-1回答再掲）
- ・外部委員による新たな視点からの問題・課題等の意見をいただき、認識の共有ができた。
- ・事務事業執行にあたっての課題と悩みでもあったため。
- ・以前からの慣習で行っている事務を、客観的に見直す必要があると認識できたことは有効だった。
- ・他の目線からの視点がわかった。
- ・事業についていろいろと考えることが出来る。
- ・このことを機に勉強することになるから。
- ・住民や議会とは異なった視点で意見をいただけたため
- ・CATVに関わっていない方の課題や問題点の意見が聞け気づきがあったこと。
- ・振り返って費用や成果を数値化したり文字化して整理することで、自分の中の整理や理解は深まったと思う。
- ・申請主義の事業なので成果については目標達成が困難な年もあるが、改めて事業目的は確認できた。
- ・評価しづらい事業であったと思う。
- ・事業を進めていく方向性が確認できた。
- ・指摘事項は参考になったため。
- ・事業について改めて考える機会にはなったと思う。
- ・目的などは前例主義になっていたが、担当課のアドバイスにより深く考えることが出来た。

## 5.次年度以降の改善点・ご意見

■設問5-1 二次評価について、次年度に改善すべき点等があれば教えてください。

- ・もう少し焦点を絞って協議できればいいと思います。
- ・事業によっては議論が盛り上がると思いますが、だいぶ時間が押していた中で始まったことが気になりました。また、時間が押していたにも関わらず、説明員の説明時間が長くなってしまったので、委員との意見交換の時間が短くなってしまったのは反省しないといけないと思いました。
- ・庁舎間の移動が大変。
- ・行政職員の人数は3人ぐらいでもよいのでは？（あまり意見が出なかったので）
- ・既に廃止を決定している事業は二次評価から外すべき。
- ・結論を原課のみに求めるのではなく、評価主管課が最後まで伴走すること。

- ・課長が出席できない議会時期の実施は見直していただきたい。
- ・個々の業務が増える中、準備にあたり職員の負担が大きいと感じます。
- ・限られた時間での実施で無理があり、時間オーバーも理解できるが、一定のところで区切れるといい。長引く原因は、発言時間の長さも要因の一つである。双方に伝えたいことがありすぎるのか否か。
- ・細事業別シートを各担当者で入力するため、評価表への入力しがしにくい点。
- ・評価を受けたい職員から手を挙げる形としてほしい。
- ・時間厳守でお願いしたい。
- ・全ての事業でなくてもよいのかと思います。
- ・事務事業評価に要する役場全体の負担（人件費等のコスト含む）と得られる成果を検証いただき、釣り合っているか、あるいは適正な負担（もしくは成果）であれば改善すべき点はないと思います。
- ・事業の選択を考えてほしい。無理に指定しなくても良いのでは？
- ・時間をもって考慮していただきたい。
- ・評価者について、同じ方が重ならない事も必要。説明者について短時間でより多くの効果が得られるよう、評価シート構成等のトライ&エラーで更新してってください。
- ・評価者の個人的な思いで言うておられるようなことがあったり、事業の趣旨を十分理解されていないように見受けられることがあったり、理想論ではあるが・・・といったことをおっしゃったり等好き放題言うておられる方もあったように思う。
- ・国・府100%補助事業をそもそも評価対象とする必要があるのかが、疑問として解消されていません。
- ・評価後、どうやって改善していくかが問題。多分、やらないのではないかと。
- ・一つの事業を評価するのに、事業のボリュームによって時間が短すぎる場合があるのでは。細事業すべてについて職員の説明や委員からの意見聴取に要する時間がもったいないので、この点を改善すべきでは。例えば、細事業の中でも評価対象にする、しないを事務局と委員とで目合わせして行うとか。
- ・負担金等評価しにくい事業があるので、除外してほしい。
- ・評価後の施策の進め方について、誰がどういうチェックをしているのか明確にさせていただけたらと思います。
- ・評価者の自己主張の抑制、評価結果の実行・優先度の位置付けを明確にする。
- ・課内で、事業の構成、意味、位置づけを明確にしたい。これにより事務事業評価制度が更に有効に機能する。
- ・役場職員の出席委員のモチベーションが下がっているのでは？と感じている。どのような改善方法があるのか持ち合わせはないです。
- ・事務事業評価の必要性については認めるが、Aチームに行革委員を含める必要は無いと思う。

■設問5-2 二次評価に関するご意見・感想がありましたらご記入ください。

- ・外部評価委員の参加は必要ですか？事務事業評価を実施する以上、企画財政課が主となって各事業の評価結果を予算・行革・政策に反映させるべき。
- ・Bチームの方は3年前にも評価をいただいているので、評価内容について担当課は何をやって、何が出来ていないのかが分かるような項目を設けても良いのかなと思いました。（当日に評価者が説明員へ質問してから回答する流れだったと思いますが、当日は聞かれませんでした。言いっぱなしで終わるのも、なんだかもったいないような気がします。）
- ・評価シートの作成について、なぜか毎回「めんどくさい」と感じてしまいます。例えば数字を入れた後はアンケート的に選択方式にできないものでしょうか？無責任に意見してすみません。
- ・よかったです。二次評価を受けることで不要な事業をバサバサ切ってもらいたいです。職員も仕事へのモチベーションが上がると思います。
- ・判定結果を踏まえ、指摘事項等について改善していきたい。
- ・職員一人ひとりが事務事業担当として、自分事化することでよい二次評価になると感じる。
- ・全ての事業でなくてもよいのかと思います。
- ・一度立ち止まって検証し、その事業の今後について考える機会としては良いと思います。が、その結果や評価者からの意見が次年度以降活かされているか（活かさないといけないという風土があるか）という疑問が残るので、職員からすると手間だけかかっていやなことを言われる取組という印象があるのも理解できます。
- ・行革委員による評価は外部視点・民間視点があつてとてもよいし、いらっしゃらないグループとした時に舐めている訳ではないもののやはり緊張感がまったく違い引き締まる。どのグループにも入ることはとても良いことで継続されたい。

- ・ 評価チームから出た回答が絶対なのか、回答の内容に事業を方向転換させるべきなのか、自分自身が事務事業評価後の対応を理解していない。
- ・ 書類の作成に相当の時間が必要となり他の業務を圧迫しているので、事務事業評価そのもののあり方について再考していただければ幸いです。
- ・ 20分程度の説明、数名の多数決、票が割れた評価結果の決定をどのように扱うのか理解しきれない。評価結果は業務推進の参考程度で良いのかな？すべての事業の事務事業評価を行う事の見直し、事業コストの多寡で事務事業評価の実施の有無を決めるのどうか。
- ・ 行革委員が民間感覚で指摘をされるが、あくまでも行政が行う事務事業であるので、民間感覚にそぐわない事業もあると思う。また、意見や指摘は良いが、感情的にならないよう配慮して欲しい。